

**燕労災病院の理念**

◎働く人々と、地域の人々  
のために最善の医療を  
目指します。

**病院の基本方針**

◎安全で質の高い医療の  
提供を目ざします。

◎勤労者の健康管理を支  
援します。

◎医療に関する教育・研修  
を支援します。

◎地域の人々の健康を守  
り、福祉に寄与します。

**目次:**

*私の趣味: 検査科技師長 石黒 泉	1
*私の趣味: 検査科技師長 石黒 泉	2
*「患者接遇の実践研修」に 参加して *お知らせ: 医師の交代について *編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4

# 燕ろうさいつうしん

## 私の趣味

検査科技師長 石黒 泉

皆さんもいろいろな趣味をお持ちと思いますが、私にも幾つかの趣味があります。何れも最初はちょっとしたきっかけで好きになり、ストレス解消に役立っていたのですが、やがてその深さを知り、もっと極めたいとなるとなかなか上手く行かず、そのうち趣味がストレスになるという厄介な私の趣味ですが、今回はそのひとつ「サボテン栽培」について紹介させていただきます。



**【サボテンの魅力】**

サボテンにも幾つかのジャンルがあり、私は主に球形（丸形）と柱サボテンを対象にしています。その他には、団扇、孔雀、蟹葉それにシャコバサボテン（デンマークカクタス）などが有ります。

球形・柱サボテンの魅力は何と言ってもその形（姿）と棘の美しさとバリエーションの豊富さにあると思います。勿論、花も咲き美しいのですが、花が咲いている期間は長い物で1週間くらい、多くは数日で中には1日から半日くらいのものであるので、花はオマケくらいに思っています。

**【サボテンの名称】**

「サボテン」これは日本語で、この他に「霸王樹」や「仙人掌」とも言われます。英語では「カクタス（CACTUS、複数形はカクチ：C U C T I）」で、語源はギリシャ語のカクトス（棘だらけの植物）に由来するのだそうです。そして、個々のサボテンの名前は、学術的には国際植物命名規約による二名式命名法が用いられます。二名式命名法は、属名（genus）と種小名（species）からなり、原則はラテン語もし



写真1. *Pereskia aculeate*

くはギリシャ語を用い、属名の1文字目は大文字とし、後は小文字を用い種小名（全て小文字）は形容詞で表記する規則です。（この他に命名法には国際動物命名規約や国際細菌命名規約などがありますが、ほぼ同様の規則です。）日本ではこの学名の他に和名も用いられています。

**【サボテンの定義】**

サボテンの定義、これは結構難しいのですが、一般的には、北米・南米大陸とその周辺の島々に生息するCAM型光合成（Crassulacean Acid Metabolism：ベンケイソウ型有機酸合成）をする植物。普通の植物の光合成は昼間に気孔を開きCO<sub>2</sub>を取り込み、水と日光より糖質を合成してエネルギーを得ていますが、サボテンの生息地域は水が少なく、昼に高温になるので昼に気孔を開くと水分を失うため、夜に気孔を開きCO<sub>2</sub>を取り込みリンゴ酸まで代謝して保存し、昼に

日光を利用してエネルギーを得ています。このCAM型光合成を行なう世界中の植物を総称して多肉植物（サキュレント：Succulent）と言います。サボテンも多肉植物の一種ですが、種類が多く生息分布も限られているのでサボテンと多肉植物とは通常は分けて扱われます。

### 【サボテンの種類】

サボテンの種類は260から300属、8000から10000種と言われていいますが、人口交配により自然界には存在しない新しい品種が生み出されています。（エキノプシス属とロビビア属からロビプシス属が園芸作出種として作られた。）また、21世紀に入りメキシコで新種のサボテンが発見され話題となりました。



写真2. *Mammillaria zeilmanniana*

### 【サボテンの育て方】



写真3. *Astrophytum myriostigma*

サボテンを育てるのは難しいと思われている方も多いと思いますが、ポイントを把握すれば意外と育てやすい植物で、花も割と簡単に咲いてくれます。育て方の最大のポイントは土と水やりそして日光です。まず水やりですが、サボテンは日本では春と秋に成長が盛んになり、夏と冬は多くのサボテンは休眠します。そこで、成長期の春・秋は水も多くやり（週に1度、頭から水を掛け、底から出て来るまでタップリと）、夏・冬は水を控えめに3から4週に一度くらい鉢の高さの1/3から半分くらいまでを基本にして後は状況に応じてアレンジ、私は翌日が雨の予想日を避け、夕方に水やりをします。次に土については、矛盾するようですが、排水性が良く保水力があるもの、私は赤玉土・鹿沼土・

バーミキュライト・籾殻薫炭に腐葉土などを基本に微塵を切って粒の大きさを2から4ミリとそれ以上分けてサボテンの大きさにより両者の土を配合します。粒状の土を使うと間の余分な水は無くなり（排水性）、赤玉土・鹿沼土は水を吸い保水性が保たれます。最後に日光ですが、夏の直射日光は良くありません。遮光を適度にした柔らかい日光を長時間当てるのがコツです。また、冬の寒さは意外と強く、6から8℃あれば平気で、水やりを控えめにして空気中の湿度を保てば、氷点下2から3℃でも生きています。基本的な育て方のポイントはこれくらいですので、皆さんも是非、サボテンに挑戦してみてください。

【写真解説】（オアシスの食堂に私のサボテンの写真を展示させて頂いています。）

写真1. 和名：木麒麟；普通の植物からサボテンに分化した最初のサボテンです。

写真2. 和名：月影丸；花列が環状に並び、鉤針状の中棘がある。

写真3. 和名：鸞鳳玉（ランポウギョク）；棘は無く、基本5稜だが3から6稜もある。

## 「患者接遇の実践研修」に参加して

9月8日、燕労災病院会議室にて、株式会社ベターコミュニケーションの瀧田義昭氏を講師に招き、「患者接遇の実践研修」が行われました。

研修では、あいさつのポイントなど基本的なことから電話対応の実践といった応用的なことまで、約二時間にわたり瀧田氏に講演していただきました。病院内だけでなく、日常生活にも活かすことのできるお話もたくさんありました。



そこで、みなさんにもひとつ、あいさつのポイントをお伝えします。



みなさんはメラビアンの方則をご存知ですか？

第一印象は、外見（服装・髪型・表情・態度）55%、話し方（言葉遣い・抑揚・速度・声の大きさ）38%、話の内容7%で決まるといふ法則です。この法則から、外見と話し方で第一印象はほぼ決まると言えます。印象度を高めるためには「あいさつ」が重要です。

あいさつのポイントは「相手を見て、（名前を呼んで）、先手必勝」です。この時、表情も大切です。視線があった瞬間に、ニコリとしてください。笑顔とアイコンタクトは親近感と安心感を与える最大のメッセージです。

自分ではあいさつはきちんとできていると思っていましたが、考えてみるとこのポイントはおさえていませんでした。これからは患者さんにより良い印象を持っていただけるよう、ポイントをしっかりおさえて「笑顔であいさつ」を心がけたいと思います。

## 【お知らせ】 医師の交代について

10月1日付けで医師3名が交代となりました。

・外科

上原智仁医師・島田哲也医師に代わりまして、下田傑医師が赴任しました。

・循環器科

皆川史郎医師に代わりまして、五十嵐登医師が赴任しました。

・神経内科

佐藤朋江医師に代わりまして、石川正典医師が赴任しました。

今後もひきつづき各臨床科の医師確保につとめ、診療内容の充実をはかってまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 【編集部より】

暑かった夏が終わり、秋がやってきました。

天高く馬肥ゆる秋…、空は澄み渡り、おいしいものが豊富でいい季節ですね。

「〇〇の秋」はたくさんありますが、私はやっぱり食欲の秋です。

みなさんは何の秋を楽しみますか？

（記：西脇）

